豊岡地区の新駅の名称が「豊岡だるま駅」に決定しました

市ホームページ

豊岡地区で、令和8年度末の開業を目指し整備を進めている新駅。JR東日本は、名称を「豊岡だるま駅」に決定したと正式に発表しました。

今回号では、名称の決定に至るまでの経緯やその由来などについてお知らせします。

問い合わせは、都市計画課（☎027・321・1269）へ。

選定委員会の審議を経てJR東日本に要望

豊岡地区で整備を進めている新駅。市は昨年6月に、市民を対象に新駅の名称に関するアンケートを行いました。その結果を踏まえ、関係団体や学生により構成された選定委員会で審議。「豊岡だるま駅」「高崎豊岡駅」「高崎経済大学前駅」の3案をJR東日本に要望しました。要望を受けて、JR東日本は、名称を「豊岡だるま駅」に決定したと12月13日に発表しました。

市民の意見を反映長く愛される駅名に

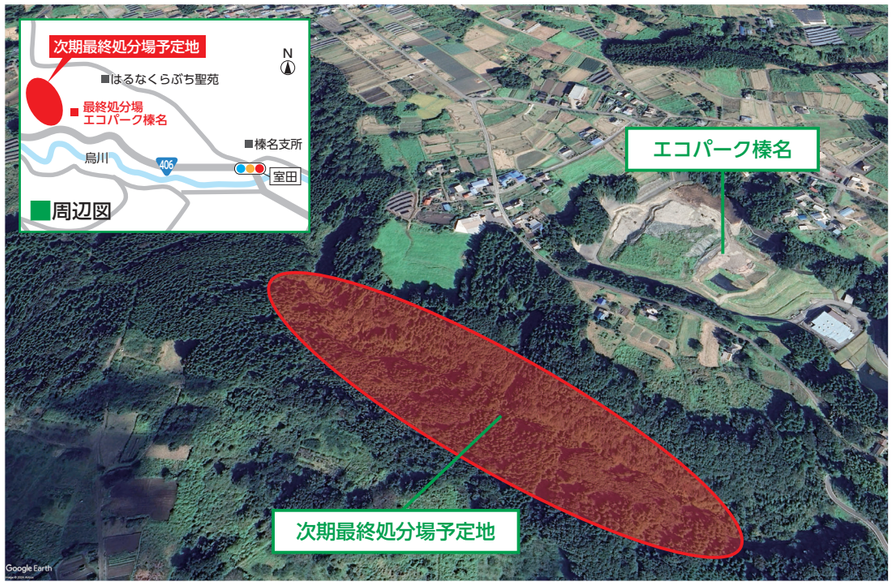
名称の選定理由として、新駅を設置する豊岡地区がだるまの生産が盛んなエリアであることに加え、アンケートでの得票率が57・5％と最も高く、多くの市民の支持を受けていたことなどが挙げられました。また、市を代表する工芸品であり地域のシンボルでもある「だるま」を駅名に入れることで、地域の皆さんに愛着を持ってもらうとともに、市の魅力を発信し、にぎわいの創出につなげたい、という思いが込められています。

12月13日、新駅の名称発表記者会見をJR東日本高崎支社で行いました

12月13日、JR東日本高崎支社（栄町）で、新駅の名称発表記者会見が行われました。本市からは富岡賢治市長が、JR東日本高崎支社からは樋口達夫支社長が出席。富岡市長は「市民の皆さんの希望がかなう形でこのような名称に決まり、大変喜ばしい。高崎支社の皆さんに感謝しています」、樋口支社長は「駅に工芸品の名称が付いたのは、JR東日本で初めてのこと。皆さんに愛される駅になってほしいです」と話しました。

今後約40年間、安定した埋め立てが可能に

次期最終処分場に関する方針が確定しました



令和15年に計画埋立量に達する最終処分場・エコパーク榛名。次期最終処分場の予定地として、エコパーク榛名の西側エリアを選定しました。

今回号では、選定の概要などについてお知らせします。

問い合わせは、環境施設整備室（☎027・321・1326）へ。

高浜クリーンセンターの焼却灰を埋め立てている最終処分場・エコパーク榛名。令和15年に埋め立てが完了することから、次期最終処分場の整備について、調査と検討を重ねてきました。

予定地はエコパーク榛名の西側エリア

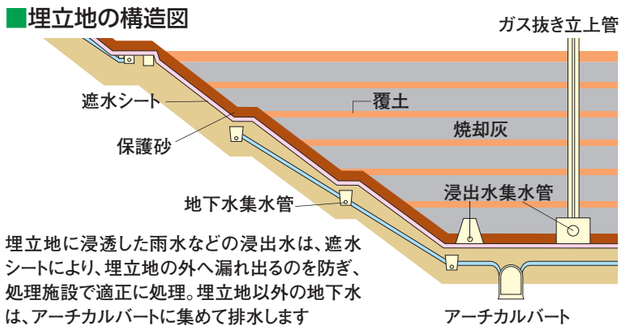
予定地の選定は、市内全域から、地理的条件などの観点を踏まえ33か所を抽出。その中から現地や周辺の状況を確認し、3か所に絞り込みました。最終的に、運搬効率や災害の危険性、周辺環境への影響などについて、総合的な評価を実施。最も適した場所として、現在のエコパーク榛名の西側エリアを選定しました。

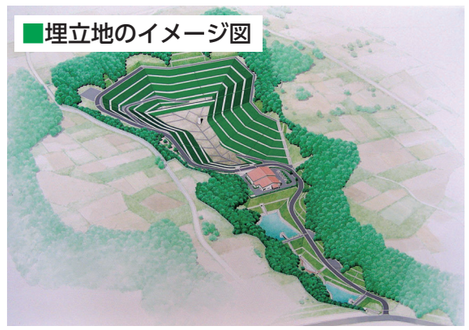
市は、この調査結果を基に土地の所有者や周辺地域の皆さんに説明。大半の皆さんから理解が得られたため、今後、整備に向けた調査を進めていきます。

今後40年間の安定した埋立が可能に

次期最終処分場予定地の埋立面積は、約5万1000平方㍍、埋め立て容量は約63万立方㍍で、埋め立て可能期間は約30年間です。現在のエコパーク榛名の残余期間と合わせると、今後約40年間は安定した埋め立てが可能になります。

■埋立地の構造図



埋立地に浸透した雨水などの浸出水は、遮水シートにより、埋立地の外へ漏れ出るのを防ぎ、処理施設で適正に処理。埋立地以外の地下水は、アーチカルバートに集めて排水します

■埋立地のイメージ図